

<学校名> 北本市立東小学校

<所在地> 北本市中丸6丁目65番地

<電話> 048-592-2050

<本事例の特徴>

本単元は、6学年の総合的な学習の時間「世界の国からコンニチハ」の取組から、世界に目を向け様々な文化を知ることや、外国語活動や本校の研究課題である、「食育」をテーマに国際理解を深めていく。

<具体的な取組や成果>

○総合的な学習の時間の「世界の国からコンニチハ」

総合的な学習の時間の充実・学力向上のため、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の学習スタイルをスパイラルに積み重ねていく必要がある。本学級では、総合の学習スタイルの「整理・分析」において、児童の学習意欲を引き出す取組を行った。また国際理解を深め世界の文化を知ること、幅広い価値観や知識を養う指導を行った。

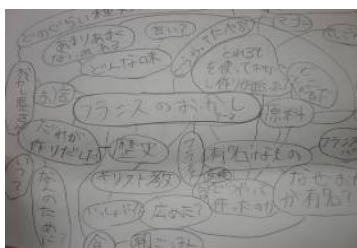
○国際理解を深め、学習意欲を引き出すために

手立て① イメージマップを作り、自分の今までの情報の整理を行う。

手立て② ミニ発表会を行い、児童同士の話合いや意見交換を行う。

手立て③ 世界地図マップ等での整理・分析を行う。

(1) 手立て① イメージマップによる整理分析



情報の収集を行い始めたところで、2つの課題が生じた。

ア 調べることがわからない。またはもう調べ終わった児童。

イ たくさん情報があるものの收拾がつかない児童。

これらの児童のために、イメージマップをつくり、グループで自分のもっている情報やまだ知らない情報、調べたいことなどを焦点化することで児童の間から新たな課題が生じ、課題に向けて情報収集を行うようになった。

児童の反応【中国料理（餃子）を調べていたグループ】

C: 中国には餃子という食べ物があるけれど、日本の餃子とは具や皮が違うみたいよ。

C: 餃子って言っても同じではないなんて知らなかった。

C: 中国と日本は他にも違いがあるのかな。

### 手立て①から生まれた効果

- ・たくさん課題が見つかり、課題が見つかったことから、調べる意欲が出てきた。
- ・自分が必要な情報が何か整理することができ、調べる方向性が定まってきた。
- ・教師も、今後の活動の具体的な支援をすることができた。
- ・他の授業でも、たくさんの情報を整理するときやイメージを膨らます時などにイメージマップを用いる児童が増え、さらに授業の深まりにつながった。

### (2) 手立て② 途中経過報告 (ミニ発表会)



グループごとに今まで調べた内容を発表し、疑問点やよかったところを意見交換して新たな課題が生まれた。また、グループ全員で話し合う時間を設定し、発表した際の質疑応答の見直しを行うようにした。

C: いろいろな国の食生活についての発表を聞いて、食事をするときのマナーや食材が違うことに気が付きました。

C: 国によって食材や作り方、さまざまな生活があることがわかったよ。

### 手立て②から生まれた効果

- ・発表を聞いて自分の調べていた国との相違点、新たな課題が生み出された。
- ・自分の考えを発表することで、もち合わせている知識や資料の分析を行うことができた。

### (3) 手立て③ (イメージマップ)

各自が調べていたことをお互いに共有したいという思いが膨らんでいった。ある児童から

「世界マップを作りたい」

という意見が出た。

それぞれの情報を一目でわかるように自分たちが調べた国の資料等をマップ上に貼った(整理)。世界地図に貼っていく中で、改めて日本も世界の一部だということ認識した(分析)。



「日本の周りを調べていたけど、自分たちが住む日本のことについては誰も調べていないね。」

「自分が調べている国と日本の食の違いについて調べたい」という意欲が高まり、「日本と外国の食の違いについて調べよう」というクラス全員での課題が新たに生まれた。